

2017年9月23日、24日に開催した「ハナスパ」は、映画を観た後に「てつがくカフェ」を行う「話す編」とレクチャーやトークセッションを行う「聴く編」という2つのプログラムで行いました。「話す編」では30名の方にご参加いただき、2時間という限られた時間の中で、他者との対話を通してうまれた問いに対して考えを深めていきました。しかしながら、切り口が多いテーマ故、もっとじっくり時間をかけて考えていきたい、という声から「話す編」を再度行うことに至りました。二度目の方も、初めての方も、どうぞお気軽にご参加ください。

映画「記憶との対話」について

福井市出身の作曲家、縦山智子の呼びかけで2005年に立ち上げられたマイノリマジョリテ・トラベルは、2005年から2006年にかけて演出家の羊屋白玉（指輪ホテル）とプロデューサーの三宅文子クリエイティブ・チームを迎えて「東京境界線紀行」プロジェクトを実施し、社会における〈障害〉の概念に疑問を投げかける表現活動を行った。東京で様々なマイノリティ性を自覚する人々を公募し、メンバーそれぞれの文脈を訪ねあう〈旅〉を通して、観客と一緒にアイデンティティの境界線を行き来する舞台作品が創られた。どこからどこまでが〈障害〉で、どこからどこまでが〈健常〉なのか。その線はどこにあって誰の当たり前なのか。舞台作品「東京境界線紀行『なつつの大罪』」が提起した問題を、再び現代に投げかけたい思いから、10年前の活動を掘り起こし、当時関わった人々やそれらを取り巻く社会の10年間を追うドキュメンタリー映画制作へ至った。昨年各地で上映会が行われ、上映後にテーマについて対話するトークイベントを重ねている。

監督=佐々木誠 / 61分 / 2016年

製作=マイノリマジョリテ・トラベル・クロニクル実行委員会



2018年 2月 23日 (金) 19:00 ~ 21:30
●映画上映と対話●
24日 (土) 13:30 ~ 16:30
○てつがくカフェ○

ファシリテータ：西村 高宏
ファシリテーション・グラフィック：近田 真美子

*上映前に実行委員会代表の縦山智子氏による映画についての補足説明があります。
*2日間通しのプログラムとなっています。両日参加をおすすめします。

会場：福井市民福祉会館 4F ボランティアルーム B (フェニックス・プラザ内)

〒910-0018 福井市田原 1-13-6

資料代：1,000円 (リピーターの方は500円) 定員：20名 受付開始日：1月23日 (火)

メール・電話・FAX いずれかにてお申し込みください

Mail : geibun@geibun.info 電話 : 0776-23-6905 FAX : 0776-23-7905

お名前 / ふりがな / 連絡先 / 前回参加の有無をお知らせください。

*お申し込みの際に頂く個人情報はイベント管理受付に必要とし、それ以外には利用いたしません。

ドキュメンタリー映画『記憶との対話』マイノリマジョリテ・トラベル、10年目の検証から

映画を観て対話する